相手意識をもち、自分の思いを伝えられる生徒の育成
～第２学年『目指せ！プレゼンマスター！』の実践を通して～

豊根村立豊根中学校　高橋　稜人

１　生徒の実態（中学２年生　１１名）

豊根中学校には、外国語学習の意欲・コミュニケーション力の向上や、異文化理解を目的とした「海外研修」が行事に位置付けられている。３年生は全員が参加し、ホームステイなどをしながら、海外で１週間を過ごす。コロナウイルス感染症の影響から３年間中止となっていたが、行き先をカナダからオーストラリアに変えて復活することが決定した。海外研修が復活することへの嬉しさや異文化体験への期待から、生徒たちは前向きに、事前学習に取り組んでいる。

生徒たちに自分たちの学級の武器を問うと、「個性を尊重できるところ」と返ってくるほど、一人一人の個性を認め合う雰囲気が形成された学級である。また、生徒一人一人が、非常にユニークな考え方や表現ができる。例えば、ある生徒は「自分流『枕草子』を書こう」で、原文を模倣し「花粉の多く飛びちがひたる」と書いた。また別のある生徒は、「短歌を創作しよう」で、読点を使ってテストの絶望感を表した。このように、個性を生かして表現することを得意とする生徒たちである。その反面で、表現が独りよがりなものになることがある。生徒会活動や学級活動の場面で、自分の思いや活動の目的を伝えたつもりでも、実際に周りの人には伝わりきっておらず、ショックを受けているのを見ることがある。

２　めざす子ども像

話の順序を変える、印象的な言葉を選んで使うなどの、相手を意識した話の進め方や話し方を身につけ、自らの考えを効果的に伝える力を伸ばすことで、生徒たちの個性的な表現はさらに輝くだろう。この考えから、めざす子ども像を次のように設定した。

相手意識をもち、自分の思いを伝えられる生徒

３　研究の仮説と手だて

仮説　相手に「伝えたい」という思いを強くもたせることができれば、言葉を選んだり、構想を練ったりして、相手に届く発表ができるだろう。

「伝えたい」という思いを強くもたせるために

手だて①　子どもの興味関心を基にプレゼンテーションのテーマ・発表相手を設定する。

手だて②　提案する内容についての情報を整理するデータシートを作成して、プレゼンテーションに込める思いを明確にする。

相手に自分の思いを届けるために

手だて③　手本となるプレゼンテーションから見つけ出した「プレゼンアイテム」から、自分のプレゼンテーションで使うアイテムを選ばせる。

手だて④　各班でプレゼンテーションを見せ合い、相手の反応をふまえて見直す時間を設ける。

４　研究の実際

（１）研究の計画

時	学習活動	掲示物・配付物等
1	単元名を設定、プレゼンテーションのテーマを設定し、学習の見通しを立てる。	教師が見本となるプレゼンを行い、単元のゴールを示す。
２、３	提案内容を決定し、情報を集める。	お土産データシートを使用する
4	プレゼンテーションに使える「技」を見つけて共有する。	見つけた技は「プレゼンアイテム」として掲示する。
５、６	集めた情報や「プレゼンアイテム」を参考に進行案を作成する。	「スライド」「山場」「説明内容」を記入するシートを活用する。
7	班の中でプレゼンテーションをし、「プレゼンアイテム」をもとに助言をしあう。	
8	クラスメイトの前でプレゼンテーションを行い、互いに評価しあう。	発表者の「良かったところ」を記入するシートを活用する。

（２）抽出生徒

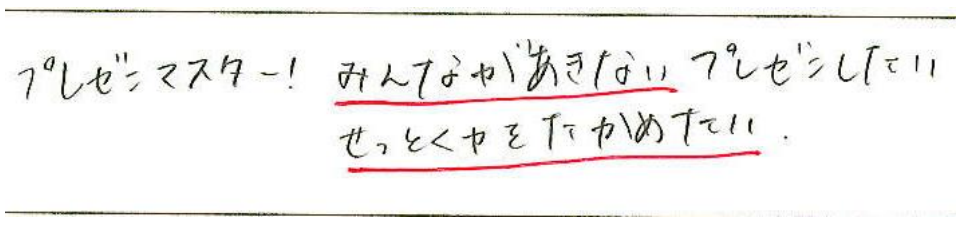
生徒Ａは、美容や服飾についての話をよく口にする生徒である。質問して深堀りすると、独自の着眼点でものごとを見ていることがうかがえるのだが、「かわいい」「やばい」「すごい」といった言葉足らずな表現を多用するために、その良さが伝わりにくいことがある。聞き手に対し、どのような情報をどのように届けるのかを考える力を育てることで、生徒Ａのもっている独自の着眼点をさらに活かすことができるようになるだろう。

（３）授業実践と考察

ア　「伝えたい」という思いを強くもった生徒Ａ（手だて①）

第１時では導入として、教師自らが長期休みに購入したお土産についてのプレゼンテーションを行い、実物を見せた。そして、お土産について話を広げていくと、生徒たちは海外研修でのお土産について口にし始めた。一人一人がお世話になるホストファミリーに対し、お礼として渡すお土産のことである。その中で一人の生徒が「(ホームステイファミリーに渡す) お土産をプレゼンするのは楽しそう」と言うと「楽しそう」と同意する声が上がった。そこで、プレゼンテーションについて学習することを伝え、テーマを「ホームステイ先に持っていくお土産」、発表相手を「クラスメイト」と設定した。第１時を終えて、生徒Ａは振り返りに「説得力を高めたい」と書いた。〈資料１〉ここからは、発表相手に対して自分の考えを伝えたいという強い思いを感じ取ることができる。

〈資料１〉生徒Ａの振り返り


プレゼンマスター！ みんながあきないプレゼンしたい
せっとくりょくをたかめたい。

イ　プレゼンテーションに込める思いを明確にしていった生徒Ａ（手だて②）

第２時の始めに、「お土産を選ぶ上で重要視すること」について意見を出し合った。〈資料２〉

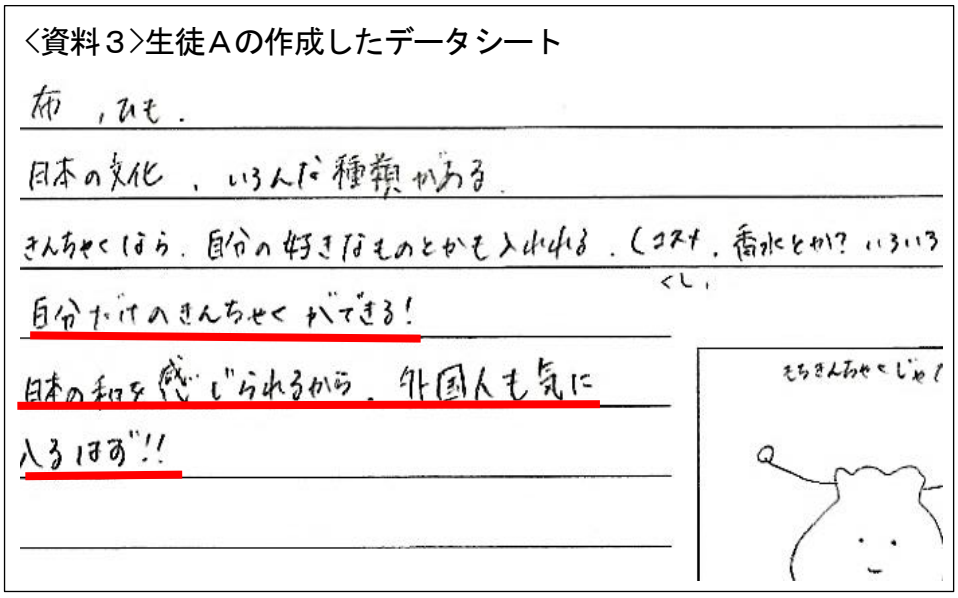
第３時にかけては、提案するお土産の情報を整理する「お土産データシート」を作成した。提案するお土産をさまざまな角度から見つめ直すことで、どんな思いを込めてプレゼンテーションをするのか、明確にすることをねらったものである。

〈資料２〉第２時での意見の出し合い

教師　：お土産を選ぶ上で重要視することは何？
生徒Ｂ：実用性。
生徒Ａ：見た目。
生徒Ｃ：おいしさ。
教師　：海外の人にお土産を渡すなら？
生徒Ｄ：日本らしさ。
生徒Ｅ：大事！

生徒Ａは「巾着袋」を提案することに決め、データシートを作成していった。生徒Ａに「どの情報がプレゼンテーションに使えそうか」と問うと、「こことここです」と二か所を指さした。一つは「自分だけのきんちゃくができる！」という部分である。これは、「自分の好きなものを入れられる」という、実用性に関する情報から発見した強みであると考えられる。もう一つの部分は「日本の和を感じられるから、外国人も気に入るはず！」という記述であった。〈資料３下線部〉ここからは、「外国人にお土産を渡すなら日本らしさを重視する」という、生徒Ｄの意見〈資料２下線部〉の影響がうかがえる。以上のことから生徒Ａは、クラスメイトの意見を参考にしながらお土産の情報を集める中で、自分のプレゼンテーションに込める思いを明確にしていったことがわかる。

〈資料３〉生徒Ａの作成したデータシート



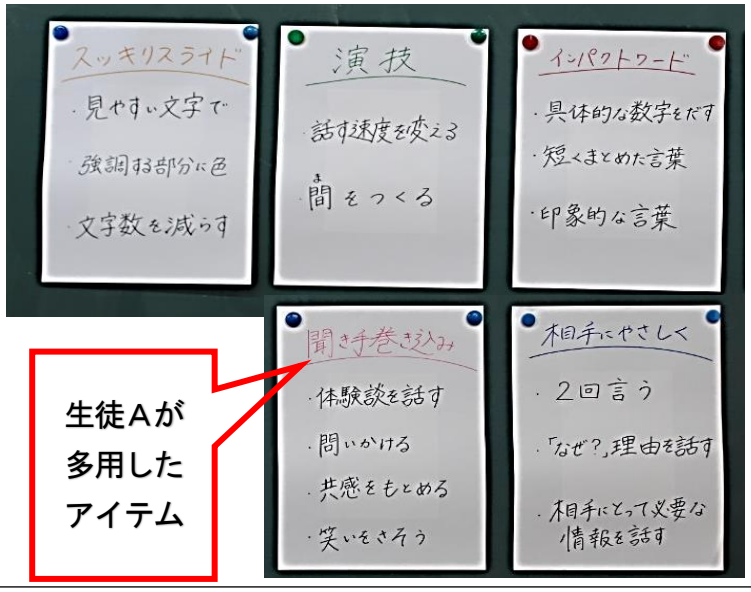
ウ　見つけ出した「プレゼンアイテム」を活用し、自分の思いを伝える方法を習得する生徒Ａ（手だて③）

第４時では、まず、プレゼンテーションには自分の思いや考えを効果的に伝えるための「技（のちの「プレゼンアイテム」）」があることをおさえた。その後、単元の始めに見せた教師のプレゼンテーションをもう一度見せた。そこから、どのような「技」が使われていたのか、もしくはどのような「技」を使えばより良いものになるのかを見つけ出す活動を行った。生徒たちは、「（スライドの）文字を減らす」「相手に問いかける」「良さを短く一つにまとめる」などの技を見つけ出した。発見した内容を、大きく五つに分類し、
それぞれ分類名を考えさせた。５項目には、それぞれ「スッキリスライド」「インパクトワード」

「演技」「聞き手巻き込み」「相手に優しく」と名前が付けられた。それを画用紙に書き改め、掲示物として以降の時間に掲示した。〈資料４〉

第５時・第６時には、「プレゼンアイテム」を活用しながら、進行案を作成する活動を行った。生徒Ａは、どのようにスライドを見せて、どのように説明するか、構成を練っていった。〈資料５〉

〈資料４〉プレゼンアイテム



〈資料５〉生徒Ａの作成した進行案

【スライド】	【山場（１つ以上）】	【説明内容】
小物が入るものといえば…？	①	小物が入るものといえば、かばん、ポーチ、そしてゆ着袋ですね!! どれも便利だけど、日本の和といえば、やっぱゆ着袋が思いつく！
ゆ着 写真		ゆ着袋には柄物からシンプルまでたくさん！ 小さいものから大きいものまであるから、入れるものによってカスタマイズできる。
たとえば… ＋ コスメ ＋ くし ＋ 自分の好きなもの	②	たとえば…ゆ着袋の中にお化粧品、コスメ、くしを入れれば、メイクゆ着袋完成！ ゆ着袋に自分の好きなもの、大切なものとかを入れれば、自分だけのゆ着袋の完成！ とってもいいでしょゆ。
ちょっと和っぽい柄		和っぽい柄にしたら、日本の和を感じられるから、外国人も気に入りますよ!!

４枚のスライド・説明内容からは、生徒Ａがプレゼンアイテムの中の「聞き手巻き込み」を取り入れていることがわかる。

例えば、１枚目のスライドには、「小物が入るものといえば…？」とある。〈資料５－①〉「私が紹介するのは巾着です。小物が入るものです。」というように、「お土産→特徴」の順に話すのではなく、問いかけからプレゼンテーションを始めることでお土産の特徴を印象付け、聞き手をプレゼンテーションに引き込んでいこうとしていることがわかる。

次に、３枚目のスライドに注目する。〈資料５－②〉ここには、データシートを作る際発見した「自分だけのきんちゃくができる」という特徴の横に、「とってもいいですよね」という一言がある。まだまだ言葉足らずではあるが、生徒Ａはここで、聞き手に共感を求めている。聞き手に共感を求めることで、自分のプレゼンテーションで特に伝えたいところを印象的に主張している。このように、生徒Ａは「聞き手巻き込み」を取り入れ、聞き手を意識してプレゼンテーションを構成していることがわかる。

また、生徒Ａは、「聞き手巻き込み」のみではなく、「スッキリスライド」も意識的に取り入れた。生徒Ａの進行案は、全体を通してスライドの文字数が少なく、端的な言葉で構成されている。特に、３枚目のスライドでは、カスタマイズすることで自分だけの巾着袋ができるという強みを、イラストを使ってわかりやすく表している。必要な情報だけを視覚的に提示することで、聞き手がすぐに内容を理解できるようになっている。このように、生徒Ａは、聞き手の視点に立って、プレゼンアイテム「スッキリスライド」を有効的に使用している。

エ　班活動を通して、客観的にプレゼンを見直す生徒Ａ（手だて④）

第７時では、３、４人の小グループに分かれて、作成した進行案をもとにプレゼンテーションを見せ合い、助言し合う時間を設けた。生徒Ａは、生徒Ｅ、生徒Ｆと話し合った。〈資料６〉

生徒Ａは、生徒Ｆのプレゼンテーションに対し、「文字ばっかりじゃないのが良い。」と、スライドの文字数に関して意見を述べた。ここからも、生徒Ａは「スッキリスライド」を意識していることがうかがえる。

〈資料６〉話し合いの様子

生徒Ｆのプレゼン後

生徒Ｅ：身振り手振りを使っているのが良かった。あとは間をもう少しとると良いかも。
生徒Ａ：文字ばっかりじゃないのが良い。ただ少し早口だったかなと思った。

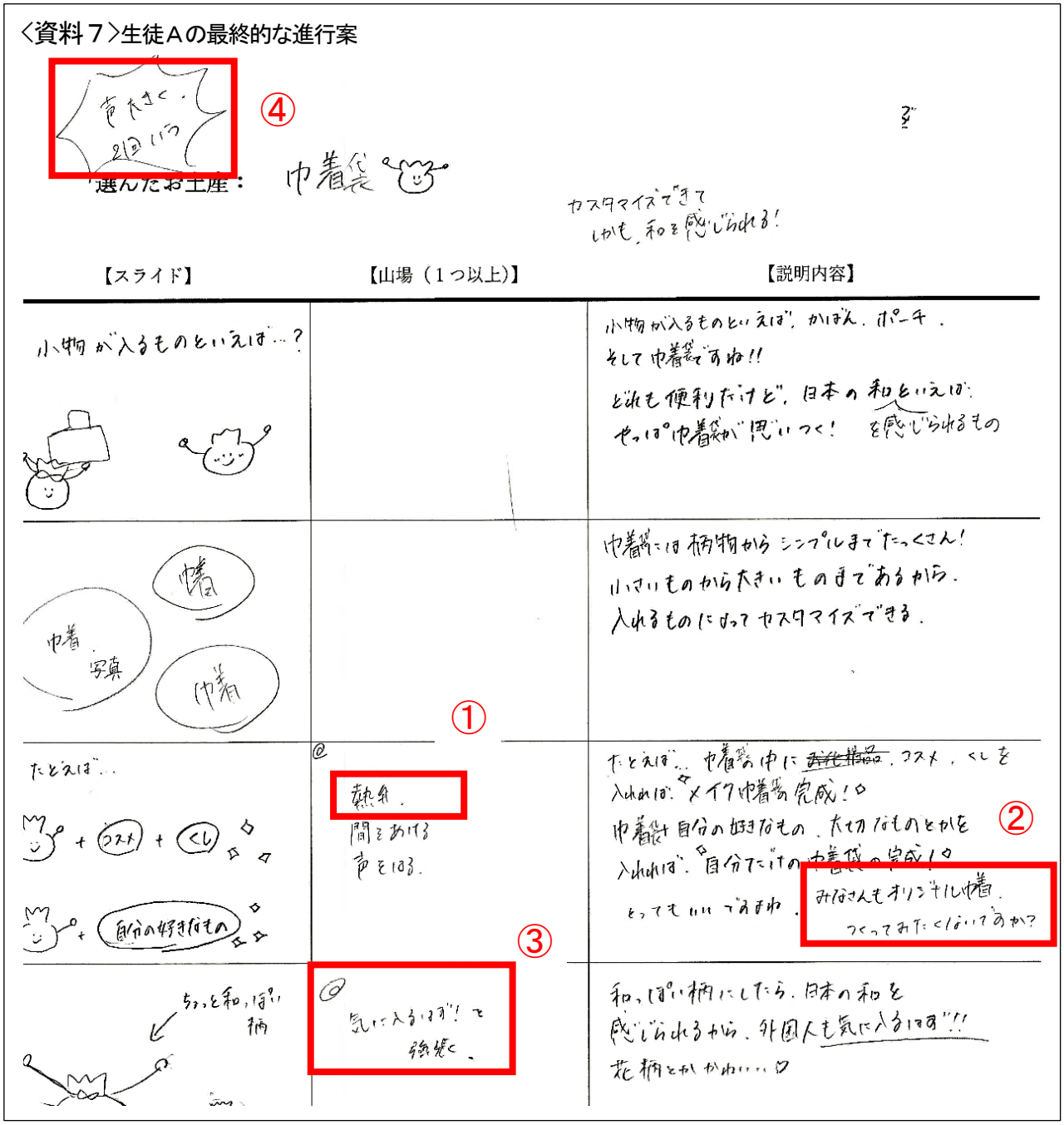
生徒Ａのプレゼン後

生徒Ｆ：(生徒Ａのプレゼンを聞いて)「和を感じる」っていうのが大切なんだよね。
生徒Ｅ：スライドが見やすかった。発表するんだから、声を大きく。ポイントを強調して言うと良いと思う。
生徒Ｆ：２回言うとか。

生徒Ｅのプレゼン後

生徒Ａ：(生徒Ｅのプレゼンを聞いて)「コンパクト」いい。ここが盛り上がるところ。
生徒Ｆ：「昔の人の貴重品」のところ、「みなさんも欲しくないですか？」って問いかけるのはどう？

生徒Ａは、生徒Ｅから、「声を大きく。ポイントを強調して言うと良い。」と、話し方に関しての助言をもらった。生徒Ａは助言を受け、進行案を修正した。〈資料７〉



「間を空ける」〈資料７―①〉というのは、生徒Ｅが、生徒Ｆに対して助言した内容〈資料６〉である。生徒Ｅは、プレゼンアイテム「演技」に含まれる「間をつくる」という部分を参考にしながら発言をしたと考えられる。この発言を聞いて生徒Ａはメモを取った。生徒同士での助言の中から、自分のプレゼンテーションに役立てられるアイテムを探し出して取り入れようとする生徒Ａの姿があった。

また、生徒Ｆが生徒Ｅに対して「みなさんも欲しくないですか？」という問いかけを入れるのはどうかと助言するのを聞き、３枚目のスライドの最後に「みなさんもオリジナル巾着、作ってみたくないですか？」と記入した。〈資料７―②〉こうすることで、「自分だけの巾着袋ができる」ことの良さについて共感を求めていることが、よりはっきりと聞き手に伝わるようになった。生

徒Aは助言し合う活動を通して、話し方や問いかけ方を工夫し、自分の思いを聞き手に届けられる進行案を作成できた。

また、山場をさらに盛り上げるために話し方を工夫しようとする生徒Aの姿もみられた。「気に入るはずという言葉を強調する」という記述〈資料７－③〉は、「ポイントを強調して言うように」という、生徒Eの助言〈資料６〉を受けたものであると考えられる。「どうやって強調するのか」と教師が問うと、生徒Aは「声大きく２回言う」と書いた。〈資料７―④〉これは、大事なことを強調するには、それを２回言う方法があるという、生徒Fの助言〈資料６〉の通りである。

このように、生徒A、生徒E、生徒Fは、客観的な視点からそれぞれのプレゼンテーションの課題を発見し、プレゼンアイテムを活用しながら解決策を出し合った。そして、より相手に届くプレゼンテーションに近づくことができた。

第７時を終えて、生徒Aは振り返りを書いた。〈資料８〉「言いたいところを２回いったりすると良いとアドバイスをもらった」という記述から、助言を交わす中で、自分の思いを聞き手に届ける方法を理解し、プレゼンテーションを修正したことがわかる。

第８時は、進行案をもとに、クラスメイトの前でプレゼンテーションを行った。

プレゼンテーションのあと、生徒Aに「２回言うところを変えたんだね。」〈資料９下線部〉と言うと、「やっぱりこっち（自分だけの巾着袋が作れること）のほうが大切だと思ったから。」と言った。

そうした生徒Aのプレゼンテーションに対して、生徒Gは「きんちゃくの良さとか、いろんな柄とかもあって楽しそう！」と評価した。〈資料１０〉楽しそうとはどういうことか生徒Gに尋ねると、「私だったらどの柄を選んで何を入れようって考える（のが楽しそう）」と言った。これは、生徒Aの「自分だけの巾着袋が作れる」という思いが、聞き手に届いたことを表していると言える。

また、生徒Aの使用したプ

〈資料８〉第７時における生徒Aの振り返り

プレゼンを発表して、言いたいところを2回いったりすると、いいとアドバイスもらったから、強調できるようにするインパクトのこしたい！

〈資料９〉生徒Aのプレゼンテーション（一部抜粋）

みなさん、小物が入るものと言えば何を思い浮かべますか？バッグを浮かべる人が多いですよね。そこに、一言加えましょう。日本の和が感じられる小物入れと言ったら何が浮かびますか？巾着袋が浮かんできますよね。この絵は餅巾着の絵ではなく、巾着袋の絵です。

（　中　略　）

巾着袋は、いろんな柄があるだけではなく、中に入れるものをカスタマイズできます。例えば、コスメ。みなさんが持っているような、くし。私だったら、イヤホンを入れます。そうすると、…自分だけの巾着袋が完成！みなさんも、オリジナル巾着袋、オリジナル巾着袋を、作ってみたいですよね？

（以　下　略）

〈資料１０〉生徒Aのプレゼンテーションに対する、生徒Gの評価

もちきんちゃくおもしろかった！笑
きんちゃくの良さとか、いろんなかがらとかもあって楽しそう！
しゃべりかたもわかりやすくて
1000点

レゼンアイテムに関する評価もあった。生徒Aのプレゼンテーション〈資料９〉の冒頭２回の問いかけに対して、生徒Dは「問いを２つ入れることでわかりやすかった。」と評価した。〈資料１１〉生徒Aが聞き手に問いかけることで、巾着袋の特徴を印象付けることができたことを表していると読み取れる。

〈資料１１〉生徒Dによる生徒Aのプレゼン評価

問いを2つ入れることでわかりやすかった。
いろんな柄を出していてこんなんがあるんだと思った。

〈資料１２〉生徒Aによる生徒Gのプレゼン評価

問題とかをかいていて、聞き手をまきこんでよかった!
日本を感じられるけど、外国の人もつかいやすいっていうのがいいと思った!

また、生徒Aは生徒Gのプレゼンテーションに対し、いかに生徒Gが聞き手を巻き込んでいたかを評価した。生徒Aは、生徒Gが、プレゼンテーションの中でクイズを取り入れていることに注目し、それが聞き手を巻き込む役割を果たしたと分析した。生徒Aは、問いかけることの効果を理解し、クラスメイトの評価にも活かすことができていた。

５　研究の成果と今後の課題

〈成果〉

○子どもが楽しみにしている行事と、プレゼンテーションのテーマや発表相手を関連付けることで、単元を通して「伝えたい」という思いをもち続けることができた。

○提案する内容についての情報を整理するデータシートを作成することで、プレゼンテーションに込める思いや、特に力を入れるポイントを明確にすることができた。

○見つけ出した「プレゼンアイテム」を各自が選んで使えるように掲示することで、視点をもって、自分の思いを届けられるように進行案を考えたり構想を練ったりすることができた。また、「プレゼンアイテム」は、助言をし合う際の視点を与えることにもつながった。

○小グループで助言をし合う時間を設けたことで、自分で進行案を作成するだけでは気づけない視点から、プレゼンテーションを見直すことができた。自分に対する助言だけではなく、他の人に対する助言もいかそうとする姿も見られた。

○３年生になった生徒Aは、海外研修の出発式で「生徒代表の言葉」を担当し、保護者やクラスメイトの前で話をした。生徒Aは「海外研修の目的は何でしょう？」とクラスメイトへ問いかけると、そこから研修の目的を確認した。保護者への感謝の意を述べたあと、最後に英語で意気込みを伝えた。研修にかける思いを、保護者やクラスメイトという聞き手に対し、効果的に伝えようとする姿があった。

〈課題〉

●実践時期が遅く、総合的な学習の時間をはじめとした、教科横断的な成果を見ることができなかった。

●生徒同士でプレゼンテーションを評価するときに、どのプレゼンアイテムがどのように活用されているのかを評価できるように工夫する余地があった。